



LOGISTICS NIPPON

発行/月曜日・木曜日 第3496号

購読料/半年32,130円(月額5,355円、税込)

©物流ニッポン新聞社 2012 (1969年4月1日第3種郵便物認可)

配送手配システムを導入

秋元運輸倉庫 作業ミス低減図る

【東京】秋元運輸倉庫(荒牧敏夫社長、東京都港区)は5月1日、配送手配システムを本格稼働させる。

(山上 隼人)

システム化により同社と荷主企業、運送会社が1つのデータを共有し、スピーディーかつミスの少ない運用を実現。さらに倉庫管理システム(WMS)とも連携し、在庫管理のスピードアップや正確性の向上も図った。

作業で時間がかかり、ミスの可能性も高くなっていた。導入した配送手配システムは、インターネットを介して荷主が打ち込んだ情報をそのまま活用でき、煩雑な業務から解消される。鈴木清取締役は「大企業であれば取扱量が多く、システム開発の選択肢は幅広いが、当社のように取扱量が少ないと、システム化の

メリットと開発コストをなかなか相殺できない。今回は機能を最小限に抑え、メリットが出るようなシステム

を導入した」と話す。システム開発を手掛けたイーソーコードットコム(港区)の早崎幸太郎社長は「システムで全てを賄おうとすると、コストが上昇する。今回は、人の作業量をいかに減らすかにポイントを絞り、コストパフォーマンスに優れたシステムを提案した」と強調している。